

行為要求表現とテモラウ文

1. 問題提起

(1) (活用形が命令形)  
書け、受けろ、受けよ、起きろ、起きよ、来い、しろ、せよ

(2) (命令文) 書きなさい、書いて、書いてください、書くな

本論文で注目したいのは(3)のようなテモラウを含む行為要求表現である。

(3) (店長が何回も計算を間違えたアルバイトの学生に)  
もうこの仕事をやめテモラウ。 [崔 2012:72]

(4) (店長が何回も計算を間違えたアルバイトの学生に)  
もうこの仕事をやめロ。 [崔 2012:72]

テモラウの従来の研究では、受身的用法および使役的用法のことについて注目される  
ことが多かった。

(5) (受身) 衛星放送などで見た方を含めると、相当数の人に楽しんでモラッタ  
と思う。 [益岡 2001:28]

(6) (使役) そうであれば、代表の座を辞めテモラウしかない。  
[益岡 2001:28]

(7) (倒れている人を見つけ、周りの人に)  
a ??早く救急車を呼んデモライマス。  
b 早く救急車を呼びナサイ。 [崔 2012:73]

本論文では、(8)の問題に対して(9)のように提案する。

(8) 問題：  
テモラウ命令文と通常の命令文はどのように違うのか？

(9) 本論文の提案：

テモラウ命令文は通常の命令文よりも、話し手が聞き手に動作の遂行の達成を強く求めるという性質がある。

## 2. 本論文の提案の根拠

### 2.1 自己統御性の低い動詞

(9) テモラウ命令文は通常の命令文よりも、話し手が聞き手に動作の遂行の達成を強く求めるという性質がある。

↓

聞き手が自分の意志で達成できることしか命令できないはず。

(10) 自己統御性の高い動詞の場合（走る、殴る、読む、書く）

- a 食べろ。
- b 食べテモラウ。

(11) 自己統御性の低い動詞の場合（しっかりする、思い出す、合格する）

- a 落ち着け。
- b \*落ち着いテモラウ。

### 2.2. 命令文における聞き手の条件

(9) テモラウ命令文は通常の命令文よりも、話し手が聞き手に動作の遂行の達成を強く求めるという性質がある。

↓

だから、聞き手は目の前にいなくてはいけないはず  
聞き手は特定されていなければならないはず  
非情物への命令はできないはず

(12) 目の前にいないものへの命令

- a (キツネに魚を盗まれて) 「キツネのやつ、おぼえとれ。」 [村上 1993:73]
- b \*(キツネに魚を盗まれて) 「キツネのやつおぼえテモラウ。」

(13) 不特定の人物への命令

- a 誰かのこぎりを持ってこい。 [村上 1993:73]
- b \*誰かのこぎりを持ってきてモラウ。

(14) 非情物への命令

a 風よ、吹け。

[村上 1993:74]

b \*風よ、吹いテモラウ。

### 2.3 命令文の受益者

(9) テモラウ命令文は通常の命令文よりも、話し手が聞き手に動作の遂行の達成を強く求めるという性質がある。

↓

命令は話し手の望みであって、聞き手の望みではないはず。

(15) a ナニ、手が冷たい？そんなら早く行ってお炬燵へあたれ」

[村上 1993:80]

b \*ナニ、手が冷たい？そんなら早く行ってお炬燵へあたっテモラウ。」

### 2.4. 話し手自身への命令

(9) テモラウ命令文は通常の命令文よりも、話し手が聞き手に動作の遂行の達成を強く求めるという性質がある。

↓

必ず聞き手への命令であるはず

(16) a 私は、信頼に報いなければならぬ。いまはただその一言だ。走れ！メロス

[村上 1993:108]

b \*私は、信頼に報いなければならぬ。いまはただその一言だ。走っテモラウ！メロス。

### 2.5. 話し手の願いとなる命令

(9) テモラウ命令文は通常の命令文よりも、話し手が聞き手に動作の遂行の達成を強く求めるという性質がある。

↓

話し手は聞き手に行為を必ず実行してほしいと考えているはず。

(17) a (産まれた子供に対して) 良い子になれ、良い子になれ。

b \* (産まれた子供に対して) 良い子になれ、良い子になっテモラウ。

### 2.6. なげやりな気持ちを込めた命令

(9) テモラウ命令文は通常の命令文よりも、話し手が聞き手に動作の遂行の達成

を強く求めるという性質がある。

↓

話し手が望んでいることを命令するはず

(18) a 「勝手にしろ！杉子とは絶交だ」。

b \*「勝手にしテモラウ！杉子とは絶交だ」。

[村上 1993:112 改]

## 2.7 異議申し立ての命令

(9) テモラウ命令文は通常の命令文よりも、話し手が聞き手に動作の遂行の達成を強く求めるという性質がある。

↓

聞き手が達成できることしか命令できないはず。

(19) a (大学を四年で卒業できなかった息子に対して)

b 本当にもう。うちはお金がないんだから、ちゃんと4年で卒業しろよ。

\*本当にもう。うちはお金がないんだから、ちゃんと4年で卒業しテモラウよ。

## 3. まとめ

テモラウ命令文における先行研究である崔(2012)は、テモラウ命令文を<即時的命令><予告的命令><警告的命令>の3つに分類したが、これらの分類は、(11b)~(19b)のテモラウ命令文が成立しないということの説明にはならない。

残った疑問点は、テモラウ命令文と通常の命令文との差異が、なぜ生じるのかという点である。この問題を明らかにするためには、今後通常のテモラウ文がどのような性質を持っているかということについて考察を深め、テモラウ命令文の性質をさらに突き詰めていく必要があると言えよう。

## 参考文献

井上優(1993)「発話における「タイミング考慮」と「矛盾考慮」—命令文、依頼文を中心—to」『国立国語研究所報告 105 研究報告集 14』, pp. 333-360, 秀英出版

崔善喜(2012)「命令を表す「てもらう」文についての一考察—「しろ/しなさい」との比較を通して—」『日本語文法』12巻1号, pp71-87

仁田義雄(1991)『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房

仁田義雄(2009)『日本語のモダリティとその周辺』くろしお出版

日本語記述文法研究会(編)(2003)『現代日本語文法 4第 8部モダリティ』くろしお出版

版.

益岡隆志(2001)「日本語における授受動詞と恩恵性」『言語』30-5, pp. 26-32, 大修館書店.

宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃(2002)『新日本語文法選書 4 モダリティ』くろしお出版.

村上三寿(1993)「命令文—しろ, しなさい—」言語学研究会(編)『ことばの科学 6』, pp. 67-115, むぎ書房.

山田敏弘(2004)『日本語のベネファクティブ—「てやる」「てくれる」「てもらう」の文法—』明治書院

